

(別添 2)

No.	
策定年月	令和4年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆産地生産性向上計画 彦根市産地 (作成主体:彦根市)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

彦根市は、滋賀県東北部に広がる湖東平野に位置し、その立地条件を生かした水稻・麦・大豆の土地利用型農業が主体となっている。その担い手の多くが認定農業者や集落営農組織であり、特に本市の南部地域においては、担い手に対する農地の集積・集約が進んでいる。

近年、米価下落や消費の減少等、米をめぐる情勢が変化する中で、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産をより一層拡大していく必要がある。

麦・大豆の生産拡大に当たっては、担い手への集積・集約が進んでいることから、作付品目の団地化の推進により更なる作業効率向上を図り、生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。

また、農業者の所得向上に向けて、地力増進、排水性の向上など土壌環境の改善等により単収の高位安定化・品質向上を図るとともに、実需者との連携強化を推進する。

現在、彦根市においては、彦根市水田収益力強化ビジョンにより水田収益力の強化に取り組んでいるが、本計画において麦・大豆の生産性向上・生産強化に係る取組をより具体化するとともに、関係者の連携を強化することで、麦・大豆生産性向上と農業所得の最大化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

- ・小麦は「ふくさやか」が中心で、県内外の実需者からは生産量の拡大を求められている。
- ・はだか麦は「ダイシモチ」が中心で、麦茶用や麦飯用等として県外業者向けに生産しており、一定量の確保を求められている。
- ・大豆は「ことゆたかA1号」「ふくゆたか」「オオツル」を中心に生産している。豆腐・豆乳・煮豆等の実需者からは、生産量の拡大を求められている。
- ・麦については特にタンパク含有量の向上が課題であり、大豆については汚損粒や病害粒の低減が課題となっている。

(2) 生産における現状と課題

近年、作付面積について麦は増加傾向であり、大豆は天候の影響による増減はあるものの、減少傾向で推移している。単収については、麦、大豆ともに年度ごとのばらつきが課題となっており、地域によっては排水対策等が不十分で単収低下となっているほ場も見受けられる。

単収低下の原因としては、排水不良等による湿害が考えられる。湿害は発芽不良や生育抑制を引き起こし、単収低下や品質低下を招くため、単収向上に向けた排水対策向上が必要である。また、作付頻度の増加による地力低下も単収低下の原因と考えられ、施肥や土壌改良資材の施用等の実施が課題となっている。

さらに、近年は担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大することにより、適期作業の逸失等が起こることで、品質低下等に繋がっている事例も見られる。今後、作業効率向上を図るうえで、スマート農業の導入や団地化等の推進が課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	ふくさやか	401	411	463	336	301	380	1,349	1,236	1,758
はだか麦	ダイシモチ	37	34	14	582	523	354	217	180	49
作物計		438	446	477	357	318	379	1,566	1,416	1,808

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆	-	393	364	386	142	138	149	558	501	575
作物計		393	364	386	142	138	149	558	501	575

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ふくさやか	426	97.3%	431	96.8%	461	96.6%	
はだか麦	ダイシモチ							
作物計		426	97.3%	431	96.8%	461	96.6%	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	-	376	95.7%	347	95.3%	367	95.2%	
作物計		376	95.7%	347	95.3%	367	95.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

滋賀県の産地交付金の県設定メニュー等において、「団地」は概ね1ha以上の、同一作物が作付されているか、もしくは概ね2ha以上の団地が形成されている内同一作物について概ね1ha以上作付けされていることとされ、彦根市としても1haを基準として団地化を進めてきたことから、1haを団地の基準とする。

ただし、稲枝地域は、特に担い手に対する農地の集積・集約が進んでいることから、4haを団地の基準としてより高度な団地化を進める。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1)取組方針

①需要に応じた生産と販売の実現

- ・生産量拡大および品質の均質化に向けて、麦・大豆ともに排水対策の徹底による湿害防止を図るとともに、堆肥等の有機物を用いた土壌環境の改善に取り組む。
- ・小麦については、後期重点施肥の推進による単収の向上に加え、生育後期の実肥の徹底によるタンパク含有量向上を図る。
- ・はだか麦については、実需者から一定の需要があることから、安定した生産量の確保に継続して取り組むとともに、容積重840g/ℓ以上、硝子率50%以下を基準として品質向上を図る。
- ・大豆については、適期作業の指導を徹底し、刈り遅れ等による汚損粒や病害粒等の発生を防止することで、単収・品質の向上を図る。
- ・播種前契約の徹底により、需給に応じた生産を推進する。

②団地化の推進

1団地1ha以上を基準とした団地化の推進に加え、特に担い手に対する農地の集積・集約が進んでいる稲枝地域については4haを団地の基準としてより高度な団地化を進めることで、担い手の面積拡大および作業効率向上を図る。団地化の推進に当たっては、滋賀県産地交付金(団地化助成)について広く周知するとともに、滋賀県の新たな生産体制のモデル創出事業等を活用し、関係機関と連携して団地化に向けた集落等での話し合いを実施する。

③土づくり

土壌診断の実施と結果に基づいた土壌改良資材等の施用、及び施肥を推進する。

④排水改良

明渠や弾丸暗渠、心土破碎等の排水対策技術の普及による排水改善を推進する。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

(2)計画

① 生産量

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和10年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
小麦	ふくさやか	463	380	1758	482	390	1880	
はだか麦	ダイシモチ	14	354	49	15	400	60	
	イチバンボシ	0	0	0	30	400	120	
作物計		477	389	1857	527	391	2060	

作物名	品種名	令和3年産(現状)			令和9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	-	386	149	575	400	200	801	
作物計		386	149	575	400	200	801	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

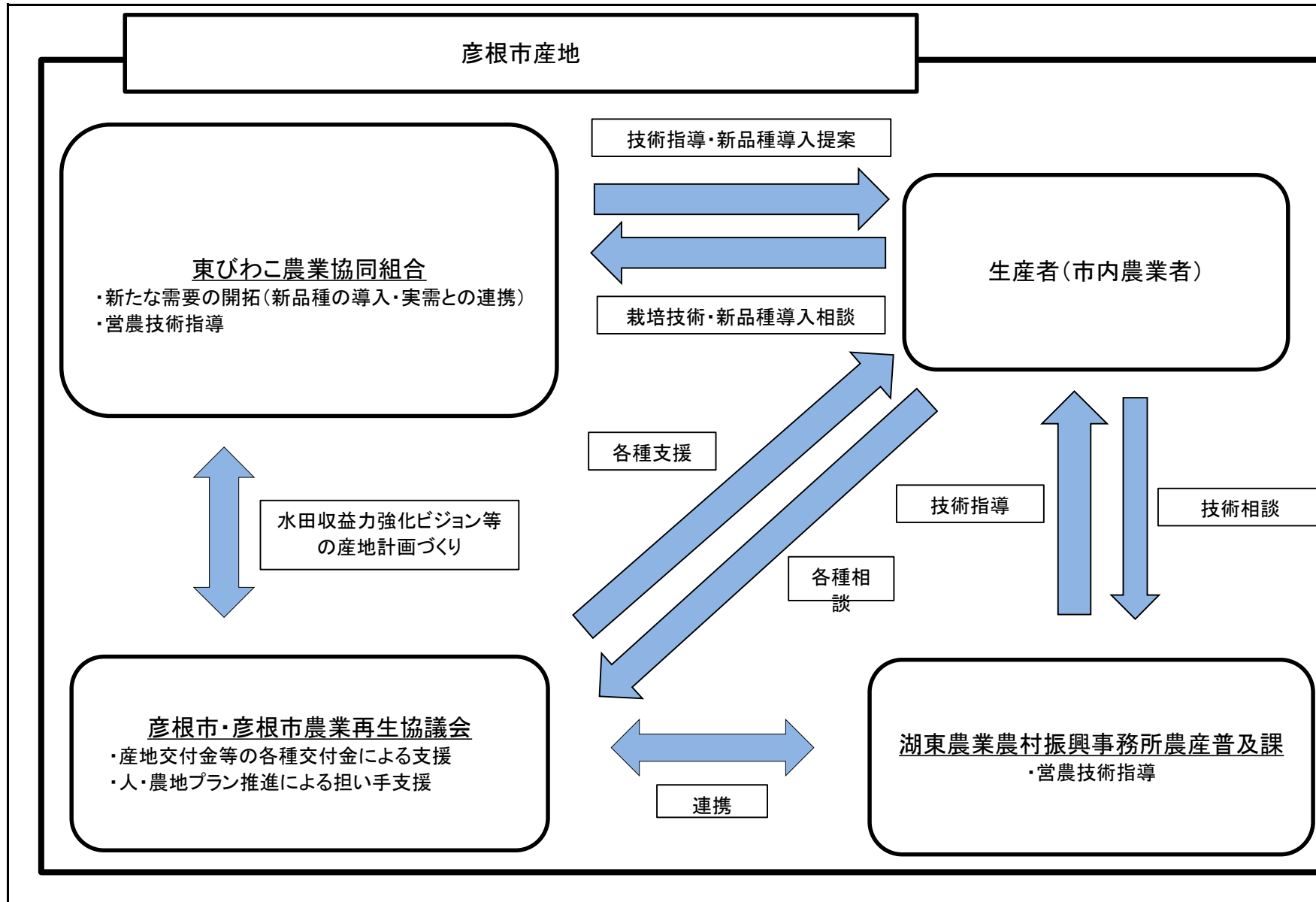
② 団地化

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和10年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	ふくさやか	461	96.6%	511	97.0%	
はだか麦	ダイシモチ					
	イチバンボシ					
作物計		461	96.6%	511	97.0%	

作物名	品種名	令和3年産(現状)		令和9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	-	367	95.2%	384	96.0%	
作物計		367	95.2%	384	96.0%	

- ※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。
- ※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。
- ※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。
- ※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。
- ※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)
- ※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。
- ※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	彦根市水田収益力強化ビジョン	毎年度	彦根市農業再生協議会作成
2	人・農地プラン	—	各集落作成
3	第6次地域農業振興計画	令和2年度	東びわこ農業協同組合作成
具体的連携内容 JA東びわこが作成する地域農業振興計画と整合を図るようJA東びわこと協議のうえ、彦根市農業再生協議会が毎年作成する彦根市水田収益力強化ビジョンにおいて、当産地生産性向上計画で示したような作物転換計画等を反映させ、必要に応じて産地交付金のメニュー等を活用しながら、麦・大豆生産性向上と農業所得の最大化を図っていく。特に、団地化の推進に当たっては、産地で作成する人・農地プランとの連携を図り、集積された農地を効果的に活用していく。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	当該事業により、事業実施区域内における麦・大豆の団地化の推進や作付面積の拡大を図るとともに、湿害対策技術等、先進的な営農技術の導入を推進する。

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。